

新資源・エネ政策でさらに成長

日本ブランドを支える
岐阜県産業界

レアメタルを再生へ

都市鉱山に照準を絞る

都市鉱山に眠るレアメタル(希少金属)のリサイクルシステムを確立しようとする動きが、同県内の企業などを中心に本格的に始まっている。企業や研究者、経営者らが

事務局は技術移転・研究開発型ベンチャーのシーエムシー技術開発(同各務原市)が務め、すでに企業や研究機関、自治体など約70社・団体が参加している。

5月にはシーエムシー技術開発や伊藤名誉教授、牛込進平YK会長らが出資し、レアメタルリサイクル技術の開発と実用化を目的とした新会社「レアメタル資源再生技術総合研究所」を設立。

2010年12月に立ち上げた「レアメタル資源再生技術研究会」だ。

すでに使用済み工具や磁石、メッキ廃水など廃棄物の種類や、タンクステンやネオジウムなど取り出すレアメタルの種類によって分科会を設立。

社長は河辺憲次シーエムシー技術開発社長が兼務し、本日も同社内に置いた。新会社では超硬工具からタンクステンを99%回収・再生するプラントを1年後にも発売する計画だ。

研究会では伊藤秀章名古屋大学名誉教授が開発した水熱分解処理技術を核に、レアメタルを回収・再生する「レアメタル資源再生コンヒナート」の実現を目指している。

参加企業が自社の技術を活用し、分野別に回収・再資源化・再利用の流れの構築を進めている。

回収・再生するプラントを1年後にも発売する計画だ。